

令和6年度 大池中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年 4月18日	学校	57	47	38	6.6	21.8
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

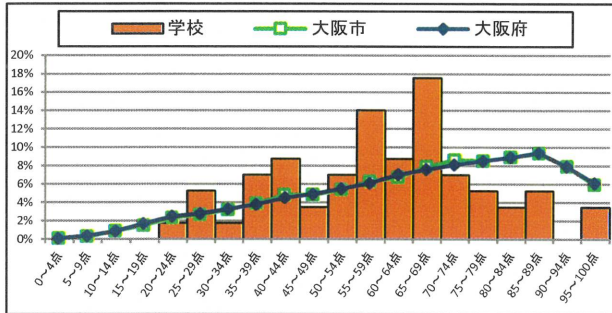
2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	57	59.2	41.3	37.8	46.2	40.2	4.8	5.4	18.0	3.6	7.8
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9

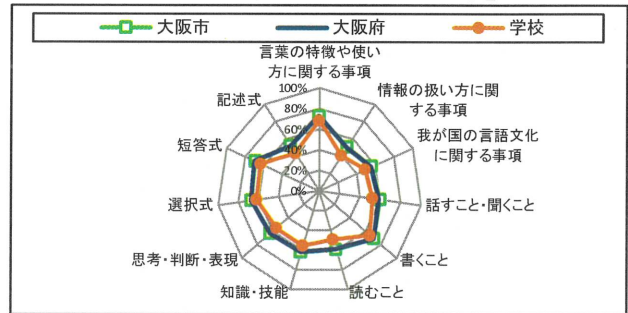
※ 3年生の理科はC問題を選択

【国語】

【得点分布】

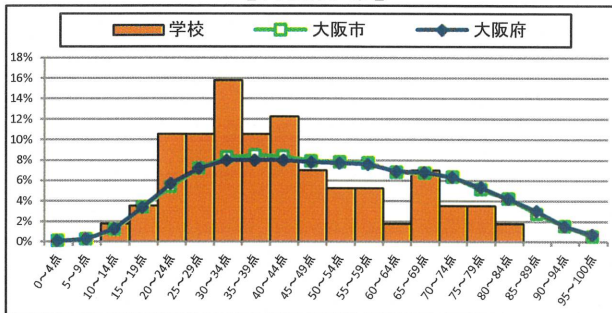


【領域・観点・問題別の分布】

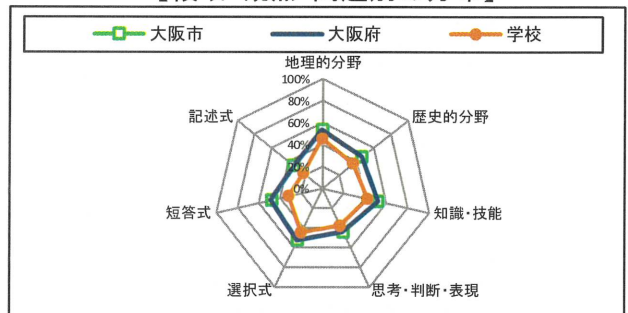


【社会】

【得点分布】

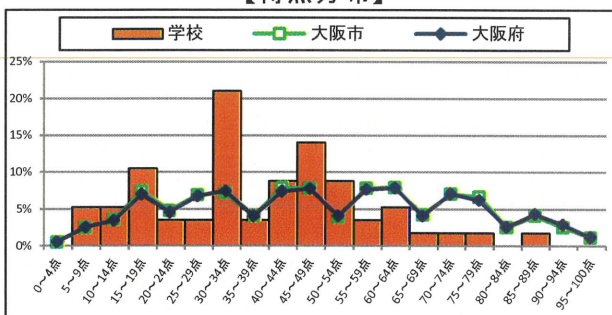


【領域・観点・問題別の分布】

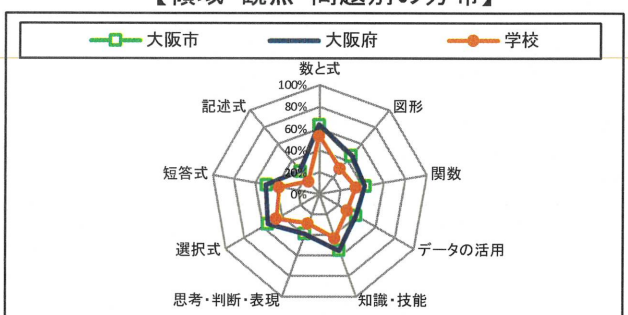


【数学】

【得点分布】

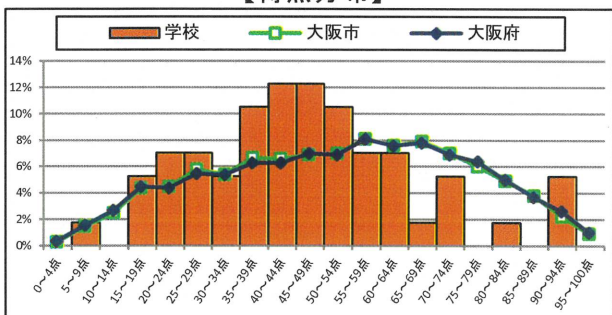


【領域・観点・問題別の分布】

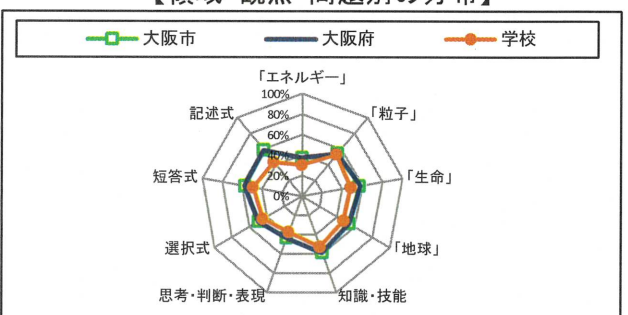


【理科C】

【得点分布】

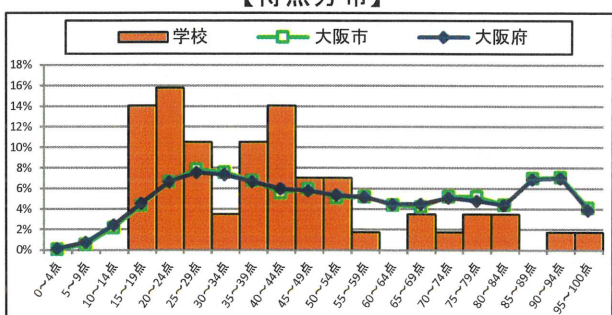


【領域・観点・問題別の分布】

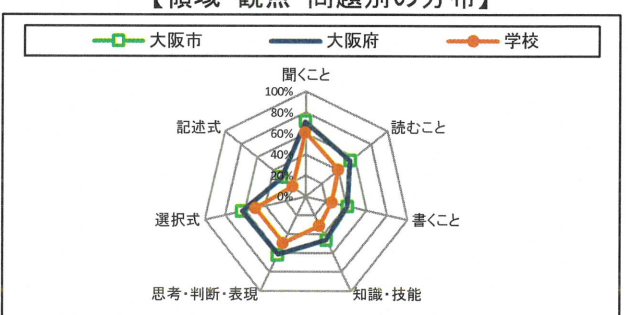


【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】



調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞ 全国と比較して、「書くこと」「読むこと」の各領域で正答率が低い結果であった。

特に、全国平均正答率が5割以下の問題については、全国平均よりさらに20ポイント下回る結果となっており、情報の関係を理解して自分の意見をまとめたり、内容を要約することに大きな課題がみられた。

＜数学＞ 全国と比較して、「数と式」「図形」の領域では正答率が低い結果であった。

目的に応じて指揮を変形したり意味を読み取ったりして説明する問題形式では、全国平均及び大阪府平均とはるかに下回る結果となっており、出題を理解して説明や証明するなど筋道を立てて解答を導く力に大きな課題がみられる。

○中学生チャレンジテスト

＜成果＞

国語・理科での平均無回答率は大阪市・府の平均を超え、粘り強く問題に取り組むことができた。また、国語では「書くこと」、社会では「地理的分野」、数学では「数と式」、理科では「知識技能」、英語では「聞くこと」など各分野で平均並みとなった。

＜課題＞

すべての教科で大阪市・府の平均を下回った。特に、数学・英語は10ポイント以上の差があり、知識の習得とともに知識を活用する記述の分野で課題が見られた。

【今後に向けて】

生徒質問紙の結果では、国語・数学とも回答時間が余った生徒が多数存在する。特に数学における無回答率および正答率から判断すると、問題を丁寧に読み取り最後まで粘り強い姿勢を身に付ける必要がある。

テレビゲーム等に費やす時間は全国よりもはるかに多く、家庭学習の時間は全国と比べて少なく、特に休日の家庭学習時間を確保する意識を高めるよう家庭での学習習慣の確立にむけ、家庭とも連携しながら取り組みを進めていくとともに、学力向上をめざし、ICT機器の活用や言語活動の深化充実を一層進めていく必要がある。

自己肯定感を問う質問への肯定的な生徒が多く、またいじめはいけないとする回答率は100%で、人を大切にする取り組みや活動の成果として表れている。

基本的知識の獲得とその活用の両輪で学習を進めることで、学力向上に繋げていく。